スモールステップの課題で「文章を書く」

本実践に関連する児童生徒の実態

対象　中学生

○課題
・書くこと，話すことが苦手。（漢字が覚えられない。文を構成するのが難しい。）
・こだわりが強い。（興味のあることはする。興味のないこと，苦手なことはやらない。）

○強み
・理科，数学が得意で理解力がある。
・パズル，ダンスが好き。
・視覚的な情報が優位。

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
自立活動・国語・社会（文章を書く課題）

目標（本実践終了時の期待する子どもの姿）
課題に沿った内容で，3文以上の文章が書ける。

指導仮説
スモールステップの課題を設定することで文章を書く活動に慣れ，3文以上の文章を書くことができるであろう。

生徒の実態

指導仮説の具体的な内容と評価方法

◆指導仮説の具体的な内容

①文を印刷した紙をのりで貼る。
②タブレットの活用。
③コミック会話で書く意味を説明する。
④国語・社会の文章を書く課題の取組。
⑤文章を覚える。

◆評価方法（どのような方法で何を評価するか。）

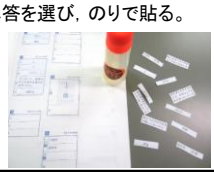
・文章を書く課題で3文以上書く。

指導の実際①

解答を選択する

①ワークシートや問題集の解答を印刷し，バラバラに切り離した教材を準備しておく。

②切り離された解答から自分で解答を選び，のりで貼る。



指導の実際②

タブレットの活用

・ノート代わりにタブレットを使う。
※手書き入力モードで入力

・問題集，ワークシートは写真で撮影し，ワードなどに貼り付け，そこに入力する。

・宿題は家のタブレットで学習アプリに取り組み，次の日にタブレットごと提出する。

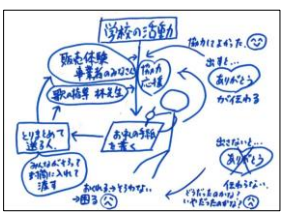
指導の実際③

コミック会話で伝える

書くことの意味・見通しを示す

実態：書くことが苦手で
何もしない。

・「書いたら…」
「書かなかったら…」
の見通しと周りの人との
関係を示す。
→書けるところまで書く。
写して書く。



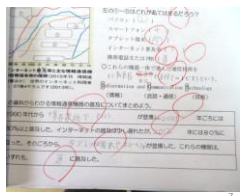
指導の実際④

国語科での取り組み

- 体験したことを書く。
- 文章を暗唱する。
- 意見文を書いて主張する。
- 反対意見を書く。

社会科での取り組み

ワークシートやテスト直しをする際，　文章で答える問題を(　　)抜きにする。



指導の実際⑤

文章を覚えて書く

小論文の解答の文章を繰り返し書いて覚え，書ける文量を多くしていく。

① 話をしながらキーワードを書き出す。

② 文を作る。

③ 覚える。

④ 書く。

⑤ ③，④を繰り返し，書ける量を増やす。

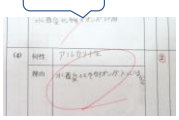
元の文

安芸太田中学校では、体育祭や文化祭の行事のときにみんなでダンスをします。僕は一年生の時、はじめて踊りましたが、女子がするようなことなので、あまりしたくないと思ってしまいました。しかし、先輩が熱心に教えてくれたり、僕に合わせたダンスを考えてくれたりして、だんだん自然に踊れるようになってきました。今では、ダンスは得意なことの一つとなりました。

実践前後での生徒の変容

実践前	実践後
文章で答える課題はやらない。	書くことへの抵抗感が低くなる → 少量なら文章を写す。 少量なら覚えた文章を書く。 → 自分で考えた文章を書く。 授業の中で，文章で答える課題を書くことが増えた。 自分の考えを自主的に文章で書くことがあった。

理科のテスト



英語で
今年の抱負

国語で筆者の意見に賛成か反対の意見を書く課題

評価

●生徒は目標を達成したか。

・概ね達成した。

●判断の理由・根拠

・3文以上の文章を書くことができた。

・日常の学習場面でも，メモや文を書くことが多くなった。

指導仮説の検証

●指導の成果

・書くこと以外に，解答の選択やタブレットの使用といった選択肢を作ることで，書くことへの抵抗感が低くなった。その後，文を写したり，覚えて書いたりする経験を重ねると，さらに書くことへのハードルが下がった。

・書くことの意味を伝えることによって，自分が興味のないことも書く必要がある，という理解を促すことができた。

●課題

・生徒自身が「書くこと」の楽しさや有用感をもつことができるような取組がもう少し必要であった。

・文章を書くために考えを整理する支援がないと，意味の通った長い文章になりにくい。

指導の改善案

●成果・課題を踏まえた改善案

・文章を書いたことが具体的に周りの人やこれからの見通しにどうつながっていくのかを，コミック会話などで伝える場を設定する。

・考えをつなげて表現していく支援をコミック会話などで行っていく。

・楽しんで書き，後から見ることができる交換ノートなどの取組を行う。